



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

障害者の ゆたかな **未来** をめざして



「日帰り旅行」 リサイクル港作業所
※紹介が10ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 私たちの実践 リハビリテーション委員会の活動 P2～3
- ▶ 9.12 3年ぶりのうたごえ交流会 P4～5
- ▶ 3回目の成人式を迎えました！ P12～16

202311月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

シリーズ 私たちの実践

リハビリテーション委員会の活動 ④

健康寿命を延ばす 食べて元気にフレイル予防

①活動・社会参加編

■はじめに

これまで重度・高齢化による身体機能低下により、活動や生活の継続が難しくなってきた利用者に對するリハビリテーションの実践報告をしてきました。

今回から、コロナ禍の活動制限により低下した身体機能の回復、意欲・活力を取り戻していくためのリハビリを「活動・社会参加編」「食事環境編」「栄養マネジメント編」の3回に渡り報告していきます。

■健康増進の取り組み

長きにわたったコロナウィルス感染症対応は、社会的な自粛生活から身体機能や体力の低下だけでなく、行動制限、社会参加や集団活動が出来なくなったことによる意欲や活力の低下に繋がっています。コロナ後の現状は、活動不足、行動制限から、利用者は「フレ・フレイル」にあると考えています。

フレイルとは、加齢や疾患によつて身体的な低下だけではなく、精神的にも弱くなり、社会とのつながりも弱くなった状態のことを指します。

フレイルは、身体機能低下↓活動量低下↓筋力・意欲低下↓食量減少による低栄養↓体力低下という負のスパイラルに陥ることさらに状態が悪化していきます。そのため、心身の機能が低下しないよう食事や運動などの生活習慣に注意し、積極的に人と接するなど社会性を失わないよう3つのポイントに取り組むことが大切です。

フレイル予防の3つのポイント

- ①運動：生活上の身体活動や散歩・体操などの運動、+10の取り組み
- ②栄養：バランスの取れた食事
- ③社会参加：就労や趣味、外出など

+10（プラステン）とは？

『+10』とは健康寿命を延ばすために、いつもの身体活動や運動に加えて10分間多く身体を動かそうという指針です。身体を動かすというのは、ウォーキングや筋力トレーニングだけでなく、掃除や通勤・買い物などの日々の生活の中での身体活動も含まれます。

健康寿命を延ばし、やりたいことを続けていくためには早めに気づいて対処をする、予防への取り組みが大切です。フレイルを予防しつつ、利用者の願いに沿った活動・生活を實現していけるように、リハビリとして身体機能や意欲の向上にアプローチした実践を報告していきます。

■実践報告①

ゆたか希望の家でもガイドラインに従った感染症対策と行動制限が行われ、特に数度のクラスター対応においては日常生活そのものに制限が大きくかかる事態となりました。身体機能評価を実施したところ、「手すりを持たないと階段を上がれない」「座位姿勢が崩れて車椅子から落ちそうになる」「長距離を歩くと息切れがする、疲れてくるとつまづく」など運動不足による身体機能や体力の低下を引き起こしていることが分かりました。また、外出自粛による意欲低下、食欲も落ちて体重が減ってしまった利用者も多くいます。

コロナによる行動制限がなくなり、今年度は外出や日帰り旅行を楽しめる体力や意欲を取り戻していくために、活動量を上げる取り組みとして、生活リハビリの視点から生活支援の見直しを行い、日中活動では集団で実施する運動プログラムを立案して実施しています。

・体操：ラジオ体操や棒体操、起立運動など

・レクリエーション：輪投げ、玉入れなど簡単に利用者に馴染みのあ

るもの

・散歩…館内をスタンプラリー形式で散歩する

また、行動範囲を広げていくため、近所の公園まで歩いていく長距離散歩や、車で行って広い公園の敷地を歩行するドライブ散歩など、楽しみながら体を動かす仕掛けづくりをしました。9月上旬にはくりのき班が日帰り旅行に行き、全員が楽しんで帰ってくる事が出来ました。今後様々な活動やイベントを楽しむことができる体力づくりを目標に、日中活動と生活の両面で活動量を上げる取り組みを継続していきます。

■実践報告②

なるみ作業所は3回のクラスターによる施設閉所を余儀なくされました。閉所後は感染対策を執るために集団で行う取り組みや活動に対して消極的になり、仕事中心の考え方が広がっていきました。2週間の施設閉所により開所後は利用者の身体・意欲面の変化が見られるようになり、歩行や階段でふらついたり、体を動かす活動として散歩に誘っても「なんでー?」と拒否も見られる

ようになりました。

そこで、健康的に体を動かす取り組みとして『1日の活動量の増加を図るために現在行っているラジオ体操の取り組みと仕事中の動きを再検討していく』ことに取り組んでいきます。

まずは活動量を上げる取り組みとして、日々の仕事から体を動かす機会を作るようにして行きました。片付けII体を動かす機会とし、利用者への支援を『してあげる』のではなく『一緒に行く』ように取り組んできました。また、それ以外にも週1〜2回程度ミニ体操として棒体操や立ち上がり運動を実施してきました。

・棒体操…

- ①肩の上げ下ろし(バンザイ)
- ②肘の曲げ伸ばし
- ③体幹の回旋
- ④体幹の側屈
- ⑤体を前に倒して足タッチ
- ⑥膝裏を左右交互に通すそれぞれ10回×3セット

・起立運動…10回×3セット

ラジオ体操だけでは十分に体を動かさきれない利用者にも簡単に体を大きく動かすことができるようにプ

ログラムを考え時間がある日にできるようにしています。続けて行うことで利用者も率先して体を動かすようになり一部の方には運動中に笑顔が見られるようになりました。

さらに2022年10月から徐々に集団での活動を再開してきました。集団リハビリでは簡単なレクリエーションから開始し、みんなと競い合う中で職員や利用者同士の関わりが起きるようになり、「今日は運動会(玉入れ)やる?」「ぼく玉入れ大好き!」など集団リハビリに対して意欲的な発言が見られるようになりました。仕事だけではない活動を通して、利用者のやりがいを感じられる場になっていきました。集団での活動を通して利用者の笑顔か



ら、仕事だけでは得られない作業所に求められている『社会参加の場』としての機能に気づくきっかけになりました。

■おわりに

加齢や疾患・運動不足によるフレイルは3つのポイントである「運動、栄養、社会参加」を毎日の生活に無理なく取り入れることで予防することができます。たくさん食べて、たくさん出かけて、たくさん笑う日常を取り戻していくために、日々の支援の中から利用者が負担なく体を動かしていくことができる仕掛け作りをリハビリ委員会として考え、共に実践していきたいと思えます。

ゆたか希望の家

西森 由里 矢吹のぞみ





9.12

3年ぶり!の うたごえ交流会

in 南区役所講堂

やっぱり「いいね!」



はじめに

「久しぶりだね!」から始まった今回のうたごえ交流会。現地とオンライン配信のハイブリッドで行いました。当日は名古屋青年合唱団から指揮者と歌担当の武藤佳子さん、ギター担当の脇谷直樹さん、アコーディオン担当の入江文子さんにおいていただきました。皆さんとなかま達と職員で2時間たっぷり歌って笑って踊って!? 「幸せな時間」を堪能しました!



待ちわびた「うたごえ交流会」

コロナウィルス感染症が流行し、大切ななかまの死を見送ったなかまの姿、長期入院に苦しんだなかまの姿、外出制限や黙食などたくさんの「非日常」に苦しんだなかまの姿など、皆さんの辛くて悲しいなかまの表情をずっと目の当たりにしてきました。

皆で集まって何かをしたくても怖くて出来ない日々が続ぎ、オンライン配信でなかまの皆さんと繋がる事しか出来ませんでした。そしてようやく、今年の5月に新型コロナウイルス感染症の位置付けが「類感染症に変更されたこと」をきっかけに、今回の「うたごえ交流会」を実現する事が出来ました。



盛り上がった交流会「いいね」を皆で

まず「幸せなら手をたたこう」の曲から始まり、音楽がかかった途端、なかま達の顔が満面の笑みになりました。立ち上がり、体を左右に揺らしながらリズムをとったり、手拍子をしたりと、なかまの皆さん一人ひとりが思い思いに「喜び」を身体中で表していました。

その後も、各事業所紹介や課題曲、それ以外にも「手と手と手」「サザエさん」など皆の知っている曲を武藤さんがセレクト

してくださり、会場は大盛り上がり!後半には武藤さんからの素敵なサブライズ!「つなげよう明日へ」の歌詞に出てくるサビの部分「いいねいいね あったかいね…」のところが手話を考えてくださり、出来たてホヤホヤの手話をその場で皆に披露!なかまも直ぐに覚えて、「いいね!」(親指を挙げてグッド)のポーズを何度もとっていました。



つなごう「うたごえ交流会 part2」

また「手話を練習中!」というリサイクルみなみ作業所のがまが、皆の前に出て、とても優しい手の動きで堂々と手話を披露。この姿に、「歌の歴史が確実に次の世代へ紡がれているのだ!」という確信を感じ、とても感銘を受けました。

「歴代の諸先輩方はどんな思いで石黒真知子先生の作るなかま達の温かいうたを歌ってきたのだろう」と感慨深い気持ちになりました。

今回の「うたごえ交流会」は大成功で幕を閉じ、終わった後の感想交流会でもたくさんなかまから「楽しかった!」「またやりたい!」という声がありました。是非とも、また自治会連合会主催で「うたごえ交流会 part2」を行いたいです!



おわりに

同日には「第5回消費税訴訟口頭弁論」がありました。「なかまが働いて得た工賃は給与として認められない」という考えは、普段の様子を見ている親御さんや私達職員、もちろん当事者であるなかま達の心が一番憤りで溢れ返っていると思います。



途中、オンライン配信で口頭弁論に参加されたなかまと中継を通して会話をしました。「難しい言葉がたくさんあって分からなかった。でも、負けずに頑張ります!」と、力強い報告がありました。

今までどんな逆境にも負けず、なかまと共に「運動」を通して突き進んできたゆたか福祉会です。これからも「歴史」や「運動」を通してみんなの思いを繋ぎ、次世代へ明るい未来を繋げ、誰もが「いいね!」と思える温かく優しい暮らしやすい社会の構築を目指していきたいと思えます。

自治会連合会担当職員 つゆはし作業所 服部麻由奈

自治会連合会会長 石橋満久



今回、自治会連合会役員会で仲間から

「歌を歌いたい」との意見があり、担当職

員と役員のみなさんと話をしてコロナ対策をして、ハイブリッド式のうたごえ交流会が開催になりました。

ゆたか福祉会が50年大切にしてきた歌のれきしを、「新しい職員みなさんと仲間たちに知ってもらいたい」と思いました。

3年ぶりにうたごえ交流会をやって、久しぶりに仲間たちの元気なうたごえをきいて良かったです。50周年の歌から古い歌を新しい職員と仲間たちに知ってもらうことが出来て嬉しいです。

楽しんでいる仲間たちのうたごえと手話を見て元気をもらいました。zoomに参加した仲間たちのうたごえを聴いて良かった。

職員のみなさんと名古屋青年合唱団みなさんの協力のおかげで上手く出来ました。参加してくれたみなさん、ありがとうございます。

SDGs 応援作品、入選者決定!

『ゆたか福祉会として大事にする SDGs10 の目標』の推進を応援するポスターやグッズのデザイン募集は、2023年4月よりスタートしました。各事業所の仲間のみなさんからは、50点以上の作品が寄せられ、7月31日のSDGs委員会において、理事長と委員のメンバーで選考しました。決定した各賞と入選者を紹介します。

- 理事長賞** ワークセンターフレンズ星崎 加藤 優さん
『ごみをポイすてせすきちんとひろおう』背景は作業所周辺の街並み
- ポスター賞** ゆたか作業所 磯部和明さん・坂野辰江さん
ペットボトルで描かれた花とペンギン
内田 佑さん 重なり合う手と手と手
つゆはし作業所 永井一雄さん 鮮やかなデザイン画
ゆたか通勤寮 中野海輝さん 氷が解けることを悲しむ白熊
- Tシャツ賞** ゆたか作業所 田口 圭さん
- エコバック賞** ゆたか通勤寮 伊藤麻那さん
- 缶バッチ賞** あかつき共同作業所 木村真悠さん
- Tシャツ・缶バッチ賞** つゆはし作業所 猪飼春雄さん(絵) 村井友美さん(文字)



Tシャツは背面に、地球をたくさんの仲間できり囲む田口さんのデザインが配置され、胸に「みんなちがってみんないい」の言葉と、猪飼さんのまあるい顔のデザインがあります。

エコバックは、ペットボトルのリサイクルでつくられた生地に、生き物たちが大地の木の芽に水を注いでいる伊藤さんのデザインです。缶バッチはSDGsをアピールする木村さんの鮮やかなデザインで作られています。

Tシャツをはじめ、仲間たちのデザインに託した願いをうけとめ、SDGsの取り組みを進めていきます。

第3回

ベトナム海外研修を終えて

ライフサポートゆたか 今治信一郎

全体概要

去る9月3日〜9日にかけて、ベトナム視察研修に参加させていただきました。この間、共にベトナム人材確保に取り組んでいる4団体（社会福祉法人愛光園、同名古屋ライトハウス、コープあいち）と、今回は職員研修として滋賀県にある社会福祉法人蒲生野会からも2名が参加され、総勢16名の大所帯となりました。



フエ科学大学の国際セミナーにて

この取り組みは、日本とベトナムの国際協力を目的にしており、単なる「人手不足だから」という一方通行の人材確保ではなく、日本、ベトナム双方の国際交流、人材協力の循環型人材確保・育成を目的として推進しています。

2019年にスタートしたこの取り組みが、実際にどこまでベトナムの地で浸透しているのか、肌で感じる事もこの研修に参加した目的でした。

出発当日は9時に中部国際空港に集合し、夜にベトナム中部にあるフエ市に入りました。まずは車窓から見えるバイク天国と知られる、現地の方の縦横無尽の運転に驚きながらも、同時にベトナム人のたくましさを感じました。現地サポーターの Enjoyable English (以下E・E) の温かいもてなしを受け、夕食を食べた後はすぐに眠りにつきました。

二日目以降からは、ベトナム中部にあるダナン・フエ・ホイアンにある障害者(児)事業所の視察を行いました。

ベトナムにおいては、日本のように事業所に対する公的な支援がほとんどなく、外国からの財政支援や慈善団体からの寄付で何とか運営しているのが実情です。厳しい中でも、専門性をベースにしっかりとした支援に取り組んでおり、昔の無認可共同作業所に共通する雰囲気を感じました。懸命に支援する姿を通して、こちらも触発された気持ちにもなりました。

SDGsを意識した取り組みを行っている事業所が、地域の評価を得て、地域に根付いている事も現在の日本で学ばべき点として感じました。

5日間のプログラムには、2名のホームステイの取り組みがあり、現地の方の自宅に2日間滞在しました。温かく迎え入れていただき、貴重な体験となりました。

今回の視察目的の一つには、フエ科学大学において現地大学が主催された「国際セミナー」への参加がありました。コーディネートをしていただいている法政大学の佐野先生に、この間の取り組みの経過や、今後の「循環型人材確保・育成」についてお話しをいただきました。

現地の方からも「日本で学んだあと、ベトナムで福祉事業に関わる事ができるこの取り組みは興味深い」等の積極的な発言もありました。

また、新たにフエ外国語大学の紹介



ダナン科学教育大学

で、ダナン科学教育大学も訪問をしました。「まずは交流から」と気軽に考えていた私たちの予想を裏切り、丁寧に格式高く迎え入れて頂き、大学側のこの取り組みに対する期待と意識の高さを感じました。

最後にこの研修に参加して強く感じた事が二つあります。

一つ目は、E・Eをはじめとする、現地の方のもてなしや気遣いを全ての場面で感じたことです。日本人に対しても積極的にコミュニケーションをとっていただき、こちらの緊張をほぐし、より「ベトナムの事をよく理解していただこ」とする想いを強く感じました。異国の地で言葉が通じなくても、ジェスチャーや笑顔を向けてくれるだけでも緊張がとけ、日本でベトナムの方が働く際には、私たちも同様の気持ちでサポートしていきたいと感じました。



E・Eの司会は「英語」「日本語」「手話」で

二つ目は、事務局として参加しているゆたか福祉会法人本部の向久美子さんが言われていた「この視察研修は学びの機会と同時に次へのアクション」という事です。顔と顔を合わせ、お互いの文化や風土を理解し関係を作っていく事が、次への種まきになるという事です。今回の研修を通してよりベトナムが好きになりましたし、この事業を成功させていきたいと感じました。

第3回ベトナム研修に参加して

ゆたか希望の家 早川 遥

今回、6日間のベトナム研修に参加させて頂きました。ベトナムの福祉施設の見学、フ工科大学での国際セミナーの参加、ホームステイ、大学訪問、E・Eとの交流など様々な体験を通して、いろいろなことを学び、考えることが出来ました。

私が今回特に印象に残っているのは、ベトナムの聾者との交流でした。見学させて頂いた施設にも耳の聞こえない子供たちがたくさんいました。私は大学生の時に手話を勉強していましたが、ベトナム手話と日本の手話は、違うところがたくさんありますが、「楽しい」「好き」などの手話は近いものがあり、伝わった瞬間はお互いに満面の笑顔になりました。

またE・Eには、デフメンバーという耳の聞こえない方もおり、健聴者も聾者も積極的に手話で会話をしていました。E・Eのメンバーと「こんにちは」「ありがとう」などの単語を互いに教え合えることができ、また、教えてもらった手話を実際に福祉施設にいる聾者の子供たちとの会話に使うことが出来ました。

国や言葉が違ってても、健聴者も聾者

も、「お互いに知りたい」「繋がりたい」という意欲があれば、交流が出来る事を実感しました。

今回の研修から、もう一度日本の手話を勉強する意欲が湧き、またベトナムの手話を知り、言語学習の幅を広げたいと思いました。



手話でコミュニケーション

ゆたか生活支援事業所から
鈴木美沙

発展途上国であるベトナムでは、福祉政策は他の政策制度よりも後回しとなつていきます。研修で見学を行ったどの施設も政府からの支援は受けられず、寺院や教会は献金等の寄付や施設内で行った軽作業での少ない収入で維持しており、不透明な将来に対して不安を抱えています。

またベトナムの大学で社会福祉を専攻しても、大学の学習過程で学んだ

ことを活かせる就職先が限られていきます。研修に参加することで、実践の場である福祉施設を運営するだけのノウハウを持った人材が不足しているといった課題を抱えていることが分かりました。

研修のもととなったのは、フ工科大学との共同プロジェクトです。8月2日に参加した国際セミナーでは、日本はベトナムから人材支援を、日本からベトナムには技術支援を行う相互関係であるとの説明を研修参加前に受けました。

今回の研修で、その説明の内容を実際に目にして学ぶ機会に参加をさせて頂けたことはとても貴重な体験でした。ゆたか福祉会では現在4名、ベトナムからプロジェクトを通して学びに来ている方がおられます。私の働く現場にはベトナムからの職員はいませんが、今後、同じ現場で働くことがあれば、今回の学びをもとに共に働きたいと思いました。



ホームステイ先へ出発!

中に彩りを



9/17

「あかつきまつり 2023」の開催



9月17日(日)「あかつきまつり 2023」を開催しました。

昨年は規模を大幅に縮小して3年ぶりに開催し、仲間は作業所で別企画を独自に行うというお祭りでした。

今回は4年ぶりに仲間も参加し、模擬店など規模も拡大して、コロナ禍前に近い形で行いました。久しぶりの大々的なお祭りでしたが、準備がなかなか思うように進まず、不安を抱えたまま当日を迎えました。

それでもお祭り日和に恵まれ、好スタートを切ることができました。これまでと違ったのは一部の仲間だけでなく、全員が現場ごとにパン・クッキー、フランクフルト、ジュースの店を担当し、みんなで地域の方をおもてなしたことです。お祭りの日をそれぞれの店の準備をしながら楽しみにし、当日も「いらっしゃいませー」の元気な呼び込みの声が聞こえていました。

たくさんの地域の方に足を運んでいただいたことありますが、仲間のご家族もバザーや模擬店で活躍していただき、地域の方をはじめ、名古屋芸術大学や中部大学の学生さんも多数ボランティアで参加してくださいました。

また急な要請にもかかわらず、開幕太鼓やよさこいで舞台を盛りあげてくださった団体やグループの方々のご協力もあり、コロナで途絶えていた人とのつながりを感じることができた1日でした。



源平由佳



りと普段とは違ったリラックスした表情を見ることができました。

午後からはえびせんパークに行き、グループ毎でせんべい作りを体験しました。出来上がったせんべいを手に持ち「焼けたよ～」と嬉しそうな表情を浮かべているのが印象的でした。

4月に入職した私自身、旅行の計画から実行まで今回、

初めて経験することができました。旅行前は「無事、予定通り行けるかな?」といった不安がありましたが、仲間からの「旅行に来てよかった!また行きたい」という声を聞き、安心しました。

今回の経験を通じて、仲間が楽しめるようにするには、路面状況や時間配分など気にするべきところがたくさんあると学びました。

大橋 拓真





暮らしの

10/7

2023 大清水福祉センターまつり



大清水福祉センターまつりは、なるみ作業所とゆたか希望の家が協力して地域のみなさまに楽しんでいただきながら、障害のある方への理解を深めていただくことなどを目的として開催しています。

昨年のセンターまつりは、物資販売や動物とのふれあいコーナーを縮小して取り組みました。13回目となる今年度は、3年ぶりの本格的な開催となりました。近隣の作業所や店舗に出店の呼びかけを行ったり、キッチンカーの出店、ステージを地域のみなさまの発表の場として活用するなど、企画をリニューアルしました。



地域のみなさんによる忍者アクション

当日は雨予報もあり、センター内にステージやブースを設けるなどの対応も行いましたが、時折小雨が降る中、動物とのふれあいコーナーは来場者が途切れることがありませんでした。また出店していただいたお店の多くが、売り切れや販売目標を達成するなど、たくさんの皆さんに来場していただいた“まつり”となりました。

おまつりを楽しみにされていた仲間の皆さんは、職員と一緒に各ブースやキッチンカーなどをまわり、買い物やゲームを楽しまれました。購入されたものを美味しそうに召し上がっている姿が印象的でした。

家族連れや地域のお子さまの笑顔も見ることができ、地域交流の一環として次年度以降も開催できたらと思います。

ゆたか希望の家 副所長
大清水福祉センターまつり実行委員 荒川 知満

9/30

リサイクル港作業所 日帰り旅行



9月30日(土)、総勢34名で南知多方面へ日帰り旅行に出掛けました。コロナ禍を経て、4年ぶりの外出だったため、出発前から「もうすぐ旅行だね。楽しもうね」と当日を待ちわびる声が溢れていました。

実行委員には仲間、職員共に3名ずつを選び、行き先や内容などの計画を練りました。事前に下見にも出掛け、段差やスロープ、お勧めポイント等を確認し、万全の体制で当日を迎えました。

ビーチランドでは、お目当てのペンギンやイルカを鑑賞することができました。皆、自分のスマホで写真や動画を撮ったり、歓声を挙げた



9月

- 3日(日) ベトナム海外研修(～9日)
- 6日(水) 主任フォローアップ研修
- 11日(月) 事業運営推進会議
- 12日(火) 保護者連合会研修会
- 13日(水) 第5回消費税訴訟口頭弁論
うたごえ交流会
法人安全衛生委員会
- 14日(木) 新所長研修
- 20日(水) 所長会議
- 22日(金) フォローアップ研修
- 25日(月) 研修部会議
- 27日(水) 副所長会議
- 28日(木) 広報・ホームページ編集委員会
- 29日(金) ソーシャルワーク実習合同ガイダンス

一般寄附(10月)

榎 京子

順不同敬称略

賛助会員新規加入者・更新者(芳名一覧)

(9月28日～10月25日 手続き分) 順不同敬称略

千葉 恵子
村田 昌史
小野寺由里子
古川 英利
岩山 芳美
大浦 光義



表紙の作者紹介

「日帰り旅行」



リサイクル港作業所

写真左から餅原達也さん、中野鉄也さん、水野弘幸さん

9月30日(土)、4年ぶりに南知多方面へ日帰り旅行に出掛けました。表紙の絵は日帰り旅行のしおりに使用した作品です。作成の際、仲間たちが自身の気持ちや感性を“言葉”ではなく“かたち”として、どのように表現するか楽しみに見守りました。

日頃、作業所内で絵を描く機会はほとんどありませんが、さすが実行委員に立候補した仲間たち。紙とペンを手渡すと「早く行きたいな～」と言いながら、下見の思い出を描き進めました。

描かれたのは「ビーチランドのイルカ」「または食堂のエビ」「観光バス」です。描き終えたあと、「これを見たら、みんな、知多に行くことがわかるね!」と満足そうな表情を浮かべていました。

広報・490号

2023年11月号(2023年11月10日発行)
定価1部100円
法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます
発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協定会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協定会費 = 年間1口6,000円、
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

2024 カレンダー販売の 取り組み始まる!



多くの皆様のご協力をお願いします。



今年もカレンダー販売の時期を迎え、各事業所では10月後半から仲間たちや保護者の皆さんが中心となり、カレンダー販売の取り組みがスタートしました。

このカレンダー販売の取り組みは、今から30数年前の年末、「仲間たちのボーナス資金を作り出そう!」と始まりました。その後もこの取り組みは引き継がれ、現在も法人の自主財源づくりの活動として、多くの皆さんにご協力を頂きながら取り組む大切な活動となっています。

お問い合わせはこちら

☎ 052-698-7356

法人本部 二村まで

*チラシ・注文書などの送付をさせていただきます。

*各施設でも取り扱っております。

私たち

3回目の成人式を 迎えました!

今回で12回目の連載となる「3回目の成人式」です。登場する皆さんの顔を拝見しながら、これまでの人生に思いを馳せ、これからもより良い日々を過ごしていただけるよう取り組んでいきます。

●みのり共同作業所

内山さんはみのり作業所を2017年から利用され、先日めでたく還暦を迎えられました。“みのり”の利用を開始してからまだ日は浅いのですが、なかまの役員にも選出され、現場の中でも存在感は抜群です。

趣味も多彩で、新しい職員やなかまには似顔絵を描いてプレゼントをされています。休日には映画を観るのを楽しみにされており、「年間50本観る」のを目標にされているそうです。

この機会に「みのり作業所に通ってどうですか?」と伺いました。「“みのり”に来る前は色々大変だったけど、今は毎日楽しい」との言葉をいただくことができました。これからも職員として、内山さんの充実した日々を支えていければと思います。



内山 寛昭さん

●なるみ作業所

森下さんは、南養護学校を卒業後、上浜作業所を経て昭和58年10月になるみ作業所に入所しました。

日中活動では、所属しているドリーム班で散歩をしたり、カラオケをしたりしながらゆったりと過ごしています。その中で現場の通称“チャレンジ”に取り組んでいます。指先や手、腕の動きの残存機能維持を目的に積み木のブロックや絵合わせなどをする時間を設けています。気分がのっている時はどんどん進めていきます。

仲間や職員に「こんちはー」と手を差し出したり、納得がいかない時の「ダメだー」と声を張り上げたりする所は迫力満点で、作業所全体のムードメーカー的存在です。今回のお祝い会では体調不良のため欠席でしたが、元気に作業所に来たときには、その迫力満点の言葉を聴けるといいなと思います。



森下 昇さん

●みずひろホーム

毎日元気一杯のみずひろホームでは、ムードメーカーの森下さんです。

平日は、なるみ作業所へ通所されています。休日は、ヘルパーさんとのドライブや映画鑑賞、ホーム職員と近所の公園へ散歩に行くことがとても大好きです。散歩中に「こんちは!こんちは!」と同行する職員や、すれ違う人に元気に挨拶をされています。カラオケが大好きな森下さん。「かけ!」というご本人からの合図でマイクを向けると、ウルトラマンタロウの歌や宇宙戦艦ヤマトの歌を披露して下さいます。

元気一杯で素敵な笑顔の森下さんがいつまでも続くよう、健康でお過ごしください。

● ゆたか生活支援事業所みなみ

勝利さん3度目の成人式おめでとうございます。

勝利さんのホームでの楽しみの1つであるコーヒータイム。入浴を終えた後の1杯を1日の締めとして美味しく飲まれている姿をみると「毎日一生懸命お仕事をされているのだなあ」と感じます。去年は色々な種類のコーヒーを買い、コーヒーミルで豆を挽いて飲みましたね。今年もおいしいコーヒーと一緒に探しに行きましょう。

コロナも落ち着いてきてお出かけもできるようになってきました。「東山動物園に行きたい!」という思いを叶えるために取り組みを企画中です。楽しみにしててくださいね。これからもホームで楽しい思い出をたくさん作っていきましょう!
～事業所みなみ職員より～



山口 勝利さん

● みのりホーム

山口さんは、大江中学校を卒業されたのち、一般就労で8年間勤められ、その後みのり共同作業所の利用をスタートされました。かつては「もう一度、一般就労をしたい」という思いを口にされたりした山口さん。現在生活されている「みのりホーム」に入所された当初も「自宅に帰りたい」と言われるなどの様子が見られました。

時が経ち、今は自分の所属されている集団を聞くと「みのり!」と即答されるほどです。作業所の「えがおひだまり班」の中でも、力のいる銅線作業に携わりながら、現場の中心的な存在として働いています。また古くからいる頼れるなかまの一人として、日々楽しく過ごされています。

還暦を迎えますが、お元気な山口さん。これからも作業所とともに、素敵な日々を過ごしていきましょう!



山田 由美子さん

● なるみ作業所

山田さんは南養護学校を卒業後、ゆたか作業所を経て昭和60年4月になるみ作業所に入所しました。

日中活動では、午前に軍手の仕分け作業、午後は所属しているドリーム班でゆったり過ごしています。日課の中でも絵日記を描く時間を大切にしています。その絵はとてもステキで女の子やお花、動物が可愛らしく描かれています。色もピンクや赤色など色鮮やかで目を惹きます。

今回の還暦のお祝い会では、素敵な淡いピンク色のワンピースにちゃんこを着て登場。スライドショーでは若かりし頃の写真を流しました。なるみ作業所の歴史と一緒に山田さんの歩みを感じる時間にもなりました。これからも山田さんらしい素敵な人生を歩んでいきましょう。

● 事業所みどり

「なるみホームひまわり」では、ご自身のペースで日々穏やかに生活をされています。

以前は少女コミックのマーガレットを読んで過ごされることが多かった山田さん。最近はリビングでテレビ番組を視聴したり、職員と一緒に過ごしていることが多いです。月に一回はガイドヘルパーさんと外出もされ、テレビなどで興味を持たれた映画鑑賞や、催し物を観に行ったり、ご自身の買い物や美味しい昼食を楽しまれたりされています。

三月には山田さんの還暦のお祝いを行いました。その際は地域の写真館に依頼をし、本人が選んだ衣装での写真撮影を行いました。記念として本にされ、ご本人もご家族もとても喜ばれていました。三回目の成人式、本当におめでとうございます。

式を迎えました!



藤田 美香さん

● ゆたか作業所

現在、ゆたか作業所デイ現場を、火木金の週3回利用されています。

ここ数年は体のあちこちが痛く、デイ利用中もベットで休憩されていることが多い美香さん。「あっちこっち（体が）壊れていく〜」「えらいこっちゃ」と言いつつも、「まあ付き合ってるわ」と、無理ない範囲で活動に参加されています。

いつもおしゃれな藤田さんは、月1回ヘルパーさんとネイルサロンに出かけています。図柄も自分で考えられ、職員も毎回見せてもらうのを楽しみにしています。

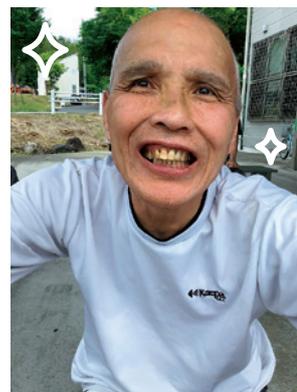
今まで還暦を一つの目標に生活してきた藤田さんですが、これから先の人生もワクワクドキドキしながら（「時々地獄」とご本人がいますが…）「一緒に歩んでいけるといいなあ」と思っています。



● ゆたか希望の家

一仁さんは、2010年から希望の家に入所されました。日中活動では「あすなろ班」に所属しています。洗濯物を運ぶお仕事で、荷物の積み下ろしを仲間と共に行い、自分の役割を果たしてくれています。洗濯物がたくさん入ったカートを自分から運び、積極的に参加しています。毎月もらうお給料を使って、ジュースやデザートを購入し、召し上がっている時は、満足そうな表情をされています。

音楽鑑賞がお好きな長谷川さん。歌を聴いたり、他の仲間がカラオケを歌っている時は熱心に聴いています。食事を楽しみにされており、午前の仕事が終わると、食堂へ元気に向っています。笑顔がたくさんあり、仕事も余暇も楽しまれています。これからも楽しく生活してください。



長谷川 一仁さん



鈴木 淳さん

高校卒業後、作業所に28年間通っていましたが、ご家庭の事情で11年間在宅生活を送られました。その後、希望の家で6か月の体験利用を経て2010年8月に入所されました。希望の家での生活も13年が経ち、生活にも慣れていきます。

日中活動では「一休庵」に所属。段ボールや空き缶などのリサイクルが可能な物を、仲間と一緒にリサイクルセンターに届けています。入所した頃は現場活動に不慣れなこともありましたが、今ではドライブや散歩、月に1回の取り組みなど、楽しく参加されています。ビデオ等の鑑賞がお好きで、時折笑顔を見せながらゆったり楽しまれています。

希望の家で大好きなコーヒーを楽しんだりしながら、笑顔のある人生を送ってください。



3回目の成人

● トライズ

南養護学校高等部卒業後、みのり共同作業所に入所。センスと器用さを持ち合わせ、縫製現場でロックミシンを担っていました。運動神経が良く、自転車で通所したり、各種スポーツ大会に参加をしていました。

2015年、トライズ立ち上げと共にB型に挑戦！現在、洗濯現場で納品を担う事が多い加藤さんは、週5日と土日も頑張っています。ジェスチャーや表情、短いワードで伝わるまで一生懸命思いを伝え、伝わった時には「そー！」と、大きな声で正解を頂けます。また、周りをよく見ていて、困っている時には助けてくれる優しい一面があります。

笑顔が素敵な加藤さん、3回目の成人おめでとうございます。これからもトライズと一緒に頑張りましょうね。



加藤 良二さん

● ゆたか生活支援事業所あつた

現在白鳥ホームでの生活は、毎週水曜日にヘルパーさんとの外出や月に2回、温泉の取り組みを行っています。ヘルパーさんとの外出では、イオンに行ったりDVDを借りたりと毎週楽しまれています。温泉の取り組みは今年度から始めていますが、温泉につかり大好きなビールや夕食を食べて帰荘されます。帰荘後、必ず「何を食べたか」と次の温泉の日を確認し、とても楽しみにされています。

9月の初めにコロナ感染がありましたが、現在は元気に過ごされています。毎週土日にはご家庭に帰省し、帰荘するとジェスチャーを交えて、家であった事などを沢山お話もしてくれます。

4月から担当職員が代わり新しい職員が増えた際にも、ホームの生活の事や良二さんの好きなものの事を教えて下さいました。

● キラリンとーぶ

石田さんは平成14年に、第2ゆたか希望の家に入所されました。長い間、農耕班で椎茸の菌打ち作業や野菜の収穫など、みんなと協力しながら仕事を頑張られてきました。

今現在は高齢という事もあり、「キララ班」でご自分のペースでゆっくり過ごされています。日中は散歩に行ったり、自販機で好きなジュースを購入したりしています。コロナ禍という事もあり、外出等があまりできていませんでしたが、5類になり少しずつ外出も計画され、ドライブ&コンビニでの買い物に楽しく参加されています。

還暦のお祝いでは皆さんに祝福され、少し照れ臭そうでしたが、終始にこやかにされていました。これからも元気で、石田さんらしくマイペースにお過ごしください。3回目の成人式、本当におめでとうございます。



石田 静夫さん

私たち

3回目の成人式を迎えました!



棟方 一二さん

● トライズ

青森県から仕事で名古屋に出てきた後、大工やペンキ職人見習い、清掃など色々な経験と苦労を経てゆたか通勤寮に入所しました。そして資源回収みなみ（現：トライズ）でビン・缶の回収作業の仕事につきました。

一人で懸命に生きてきたため、当初集団で働き暮らすのは戸惑いがあった棟方さん。馴染んでくると、顔つきも穏やかになりました。その後、地域のアパートで支援をうけて一人暮らしをしています。

体のあちこちに痛いところはありつつも、体の調子を整えながら、持ち前の器用さや仕事の勤所の良さを活かして回収以外の清掃・洗濯作業も頑張っています。これからも無理なく活躍して、地域で自分らしく暮らし続けられるよう願っています。

● つゆはし作業所 & 事業所なかがわ

お誕生日は3月でしたが、新型コロナウイルスの影響で、5月に延期しお祝いの会を開催しました。当日はホームの仲間と職員、つゆはし作業所職員、そして今は事業所なかがわを離れ各地で活躍されている職員の方々が駆けつけてくださいました。

皆さんの前で「来てくれてありがとう。これからも頑張ってください」と挨拶されていた家根谷さん。

これからも歌って踊って楽しく、元気に過ごしましょう。3回目の成人式、誠におめでとうございます。



家根谷 典隆さん

● デイサービス宝南（共生型生活介護）

ご本人からの言葉

「五十代からいろんな病気になるって、デイサービスを利用するようになった。自分の気持ちがうまく伝わらなくて、気持ちの行き違いがある事もあったけど、振り返ればゆとりがなかったのかも。自分だけ良ければいいという考えは持たない方が良くないと思う。腹に溜めすぎるのは良くないし、イライラするのはやめようと思っていても夫婦でも言いたい事は言うし、会話を大事にするのは必要だなと思う。辛さを乗り越えて生きているから今は幸せ。これからも夫婦で幸せに過ごしたい」



宇戸平 ひさえさん

体験や思い出を交えて語って下さった宇戸平さん。機能訓練も積極的に取り組まれて、杖歩行から卒業されました。

3回目の成人式おめでとうございます。これからも末永くデイサービスに通って頂き、お元気で過ごして下さいね。

